

平成30年度 実施事業の概要

施設名： 国立妙高青少年自然の家

教育事業名：「ボランティア育成プロジェクト」

期間：①11月3日(土)～4日(日)、②12月15日(土)～16(日)、③3月9日(土)～10日(日)

対象及び参加人数：① 5名、② 12名、③ 18名

目的：

国立妙高青少年自然の家で活動する大学生ボランティアの自己成長の機会を多角的に提供することで、地域社会と連携した新たなボランティア育成の仕組みを作り、地域社会を発展させていくことのできる人材を育成する。

また、年間を通じて自主企画事業の立案及び運営をサポートすることで、社会を生き抜く力を磨くとともに、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験の機会を提供する。

事業概要：

①、②については、「はね馬キャンプ in 妙高・企画運営委員会」として、1月に実施した小学生向けキャンプの企画立案を行った。

③は「平成30年度のまとめと次年度に向けて」として、各ボランティアの実践事例を発表し、意見交換を行った。また、次年度に向けて「ボランティア」についてディスカッションし、ボランティア活動についての理解を深めた。

成果：

①、②について（はね馬キャンプ in 妙高・企画運営委員会）

冬の宿泊型子供向けキャンプの企画立案を行った。主に大学1、2年生が企画立案の中核を担い、事故なく事業を成功させた。企画の内容は、活動プログラムの運営やふりかえり動画の作成を中心に設定し、広報や会計処理等の渉外的な分担は自然の家職員が担うことで、参加者にとって適切なステップアップの機会となった。

③について（平成30年度のまとめと次年度に向けて）

平成30年度のボランティア実践事例について2名のボランティアが報告した。最初に、上越教育大学大学院2年の櫻井優樹さんが、「チャリティーサンタの実践事例」と「第14回 MYOKO ボランティアギャザリング」の実践について自身の感じたこと、学んだこと、成長したこと等を発表した。次に、上越教育大学3年の矢口聖佳さんが、「一期狩り（いちごがり）」と「【冬の妙高】小学生並みに全力で遊んでみた!」の2つの自主企画について、プログラムデザインを自ら行って感じたことや企画することの魅力、大変だったこと等を発表した。

発表された2名の共通点は、地域社会と連携し事業を展開しているという点である。これは、平成30年8月に教育事業部から示された、ボランティア育成の目指すべき姿である、

①社会人として能力を備えている

②社会形成に参画する態度を育み、地域社会に貢献できる能力を有する

③自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協同しながら新たな価値を創造できる

につながる実践であり、ボランティア同士で実践事例を共有することで今後のボランティア自主企画事業の推進のきっかけとなる機会となった。

また、2日目は「次年度に向けて～オモイをカタチにするフリーディスカッション」として、1、2、3年生を中心に次年度へ向けたディスカッションを行った。各々、次年度の目標を定め、4月からの決意を新たに取り組むことのできる素地ができた。

課題：

国立妙高青少年自然の家のボランティアを取り巻く環境は SNS 等の普及によって、人と繋がりがやすくなったり、様々な情報を得やすくなったりする中で、その内容や求めるものが多様化しつつあるといえる。本事業においても、発表された自薦事例には、機構外のボランティア機会である「チャリティーサンタ」の報告や、YouTuber をテーマにした雪遊び体験の実践事例の報告等があり、内容の多様化が進んでいる。国立妙高青少年自然の家としては、今後の時代の変化に柔軟に対応できるよう、様々な面で情報のアンテナを高く張り、ボランティア自主企画をコーディネートできるように準備を進めて行く必要があると考えられる。

ボランティア育成プロジェクトの様子



企画会議の様子 (11月)



企画委員の集合写真 (11月)



実際に雪上活動を体験し企画に活かす



雪上活動における服装の安全管理



櫻井優樹さんの発表 (3月)



参加ボランティア全員の集合写真 (3月)